

第3回 全国U-12指導者研修会 グループ討議

① クラブ運営

【年会費・遠征費について】

- 6,000円～12,000円が多い。30,000円というチームもある。バラつきがあるのは、会場使用や遠征補助費などで差が生じているから。
- このほか大会参加費などは別途徴収するケースがほとんど。
(上位大会進出する年などは、会費外が年20万円程度かかるチームもある)
- 行政・協会からの支援を受けているチームもある。
- 地域企業などスポンサーから支援を受けているケースもあった。
- 行政や地域企業からの支援(体育館減免や遠征補助)を取り付けているケースが多く、特に運営上、困っているチームは無かった。ただ、バス代の高騰は頭の痛い問題である。
- 部費の値上がりを検討しているチームが多かったように思う。ハンドボールで高すぎると部員が集まらないのではないかと悩んでいる。

【スタッフについて】

- スタッフが無給はどこも同じだが、スタッフ経費(遠征費など)は、自己負担、チーム負担と様々。
- 会計業務に関しては、スタッフが全て行う、保護者が全て行う、一緒に行っているなど様々。
- ハンド経験のある保護者の一時的なスタッフの参加について、過去はあったが、今は避けているチームが多い。(練習時の保護者見学を禁じているケースもある。)
- 保護者の理解がないとチーム運営は難しいが、過度の介入はかえって危うくするケースが散見され保護者とのバランスをどのようにとるかがチーム運営上、肝要となるようだ。
- 保護者会をつくってチームの方針(スタッフについてを含む)を伝えることが望ましい。
- 体育館申請や会計は保護者のほうでやるほうが望ましい。(指導者の負担軽減)

② 部員募集・部員数維持

【現状】

- どのチームも男女合わせても15～40名程度であり、常に人員不足を感じている。
- 各学年7名程度×6学年×2男女で、80名強の人員が理想的ではあるが…(普及も兼ねて)
- 兄弟姉妹、親戚、従兄弟などの身内からの加入者が多い。
- 保護者の中に、遠征や送迎などが負担になり、敬遠される方がいる。
- 市内小学校にチラシを配布したり、募集ポスターを掲示したりしたが、その効果はかなり薄い。
- 体験教室なども、加入のきっかけになるが以前よりその効果は少ないように思う。
- 保護者間の繋がりから、加入を勧めても、友達がいない、または楽しいと感じないと続かない。
- 興味を持って、練習日にすでに別の習い事や用事があると、加入に至らない。
- 送迎や他の用事がネックになるケースが多いので、柔軟な対応が求められる。

【練習について】

- 練習日(曜日)や練習時間が決まっていた方が部員が集まりやすい(保護者の立場からすると)

- 練習時間は夜(18時から)よりも夕方(16時から)の方が望ましい(子どものことを考えると)
- 週1回など、他の習い事と掛け持ちできると「やってみよう」という人が増え、部員は増えている。(普及を第一に考え、中学に上がる時にハンド部を選択してもらえるような活動をしている。)
- 中学年・高学年から入部するよりも低学年から入部した方が辞めていく確率が低いようなので、低学年からの部員確保に努めるとよい。
- 子どもの口コミは影響大。子どもからチームを作ろう。仲間を誘おう。という声があがればよい。

【保護者について】

- 保護者会の在り方によって保護者が入部に意欲的になるようだ。(ほとんど運営には携わらず、送り迎えのみがメリット)
(逆にしっかりとした役割があり、保護者間で団結力が出る・仲良くなる)
- 親の意識、理解不足 → GKは危ない。練習きつい。遠征が多い。
→ 逆に、あずけたら安心、
後はよろしく。というような関心の低い保護者もいる。
- 遅刻、早退OKにしている。最終的に決めるときは、ぜひハンドボールを。
- 教室のかけもち、他のスポーツとのかけもちが多い⇨部員募集の時に重複は遠慮してもらっている。また、高学年になったらどちらかをはっきり選択してもらっている。

③ 指導方法・練習方法

【悩みと解決へのアプローチ】

悩①：子どもたちが勝手な行動を取ったり、指導者の言うことを聞いてくれない。

意見：厳しく接してみたらいいのでは。

良いこと、よくないことをしっかり指導することが大切ではないか？

運営方針(何を大切にするクラブなのか)の徹底と保護者への発信が必要。

悩②：自分は厳しく、子供達に自主性を持って取り組ませたいが、準備、後片付けまで父母がやってしまう。自分は父母より若いので、なかなか父母に対して言えない。

意見：自分がブレずに指導するのが大切では。チーム方針を確立すべきではないか。チーム方針の確立が第一だと思う。上記の様な運営のチームもあるだろうし、指導者がどうしたいか、どうやって今の現実に合わせるかが必要。

悩③：モチベーションをあげるには？集中力を保つ練習方法とは？

時間の制限及び似たようなテーマだったので、全員のテーマを繋げることでイメージをしやすくしてみた。「モチベーションが上がるという事は、集中している状態なので、そのような練習を提供できれば、それは子ども達にとって効果的な練習となっている。」で話し合った。

意見：まずは、指導者と子どもたちが「できた瞬間」にハイタッチをして喜びを共有する。

子ども達と適度な距離感を持ちながらも喜べる瞬間・できたと感じる瞬間を意図的に作り出せるような練習法。ゲームの中でわざと子どもに任せる場面・指導者の思いが、子ども達に伝わるようなコミュニケーションが結果として瞬間を共有できるのではないか？それがいい練習につながり、強化にもつながっていくのだと思う。

【悩みと解決へのアプローチ】

悩み：女子の指導について、どの様に指導しているか？

意見：常に声を掛けてあげる。交換ノートをしている2冊持って空白の日を作らない。

（次の練習の時までに読んで、コメントを少しでも書いて必ず返すことが大切。）

女子の指導は、男子と同じではいけないと思う。男子以上に、常に「見ているよ」という姿勢が見える形で必要である。

【女性指導者として】

- 女子の指導者は女子の選手の事がわかりすぎて、慢しているところがけっこうあるはず
⇒言う(コミュニケーション)
- 指導者も空気を読む事が大切
- 勝ちたいチームと普及に力を入れているチームでは、指導の仕方が変わってくる
- 選手になっていない子への声かけを大切にしている。
- ネット、メールの活用 → 問合せには誠実に対応する。(言いすぎくらい細かく)
体験しに来た子にしっかりコミュニケーションをとる。
時には、身体にふれて声かけることも大切。
- 叱った後のコミュニケーションも大切
- 女性指導者だから見える、見えている部分もある。
気になったら言う、注意する。 → しかし、短く、言ったら終わり(長く言いがちになる…)

【女子選手の指導について】

- 女子選手から見た印象 → 臭い・汚いは、女の子は嫌がります。指導者も清潔を心がける。
- 女子選手に対して、しっかりコミュニケーションをとる。
→ 女子選手へ声掛けをする際もバランスよく。叱った後はさり気なくフォローする。
- 女子に対して大人の男性の指導者は清潔感・身だしなみが大切。
- 男子と女子に同じことを伝える際、言い方・伝え方は同じではない。
- 女子チームには女子指導者がいないよりはいた方が良い。
- 女子は集団(グループ)になりやすく、いつも同じ人と練習する傾向にあるので目配り・気配りが必要。
- 男子と女子は高学年になると別々に練習した方が良いかもしれない。
- 女子は理解とできるようになるまでに時間がかかるので、根気よく何回も練習する。(回数大切)
- (男性指導者の意見) 女子の方が指導者に気持ちを向けさせたらやりやすい面もある。
- 子どもたちの人間関係を見極めて指導することが大切。
- 女子は練習だけではなく、いろんなところがかまってあげることが必要。←ある意味、異性である男性指導者の方がやりやすいときもある。
- 女子選手にガツガツして欲しいという意見もある、たしかにガツガツという部分は大切な部分でもあるが、小学生のうちからそこばかりを求めなくてもいいのではないだろうか。
- かげボス(指導者の前では良い子、選手同士になるといじめたり、自分の思い通りに物事を進める子)に対してどう接するか? ⇒ みんなの前で(陰での事を)「知ってるよ」という事を発言する。そして、はっきりその子に言うまたは、こっそりその子に言う(状況によって変える)

《 女の子の指導は、人間関係のコントロールが大切 》